

スコアシート

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質・性能						3.4
Q-1 室内環境			0.40			3.4
1 音環境		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能	T-2以上の建具を使用	5.0	0.60	3.0	-	
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
2.1.1 室温設定		3.0	0.30	3.0	-	
2.1.2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-	
2.1.3 外皮性能		3.0	0.20	3.0	-	
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	0.50	-	-	
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
2.1.6 湿度制御		-	-	-	-	
2.1.7 時間外空調		-	-	-	-	
2.1.8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.4	0.25	-	-	3.4
3.1 昼光利用		3.6	0.30	-	-	
3.1.1 昼光率	昼光率2.0を確保	4.0	0.60	3.0	-	
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
3.2.2 昼光制御	外部に庇を設置し、さらに内部にブラインドを設置している	4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	-	
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
4.1.1 化学汚染物質	告示対象外及びF☆☆☆☆の建材を全面的に使用	5.0	1.00	3.0	-	
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4.2.4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
4.3.2 喫煙の制御	基本的には全館禁煙。但し、来館者には喫煙ブースを設置している	5.0	0.50	-	-	
Q-2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.6
1 機能性		3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.60	-	-	
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
1.1.3 バリアフリー計画	ハートビル法利用円滑化基準を満たしている	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.40	-	-	
1.2.1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-	
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
1.2.3 内装計画	No.2、3、4に該当	4.0	0.33	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.0	0.31	-	-	4.0
2.1 耐震・免震		4.6	0.48	-	-	
2.1.1 耐震性	重要度係数を1.5としている	5.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-	
2.2.1 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.29	-	-	
2.2.2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.12	-	-	
2.2.3 配管・配線材の更新必要間隔		3.0	0.29	-	-	
2.2.4 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.29	-	-	
2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.3.1 屋上(屋根)・外壁仕上げ材の更新		-	-	-	-	
2.3.2 配管・配線材の更新		-	-	-	-	
2.3.3 主要設備機器の更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		4.6	0.19	-	-	
2.4.1 空調・換気設備	熱源種の分散化、配管類の耐震支持を行っている	5.0	0.20	-	-	
2.4.2 給排水・衛生設備	節水対策、井戸水利用、上水・雑用水の2系統化としている。	5.0	0.20	-	-	
2.4.3 電気設備	非常用発電機を設置、電気室を2階に設置	5.0	0.20	-	-	
2.4.4 機械・配管支持方法	耐震クラスAを確保	4.0	0.20	-	-	
2.4.5 通信・情報設備	通信手段の多様化を図り、通信機械室を2階に設置	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.6	0.29	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31	-	-	3.0
1 階高のゆとり			地下1階4m、5.6m 1階4.2m 2階3.3m～6.8m	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率：0.162	4.0	0.40	-	-	
				3.0	0.31	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.4	0.38	-	-	3.0
3.3 設備の更新性				3.0	0.17	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.11	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性			屋外機置き場のルーバーを取り外し可能な形状としている等	5.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q-3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			京都市景観条例に基づき高さ・外観等を形成している	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.3
LR-1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制			断熱材等により負荷を低減している	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				4.0	0.20	-	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			トブライトの採用	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			外部照明の太陽光発電の採用	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				3.0	0.30	-	-	3.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	3.0
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR-2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護				3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水			自動水栓の採用	4.0	0.40	-	-	3.6
1.2 雨水利用・雑排水再利用				3.6	0.60	-	-	
1 雨水利用システム			雨水利用を採用	4.0	0.67	-	-	
2 雑排水利用システム				3.0	0.33	-	-	3.6
2 低環境負荷材				3.6	0.85	-	-	
2.1 資源の再利用効率				4.0	0.35	-	-	
1 躯体材料の再利用効率			コンクリート部分に再生骨材を採用	4.0	0.67	-	-	
2 非構造材料の再利用効率			階段滑り止め、野地板に再生材を利用	4.0	0.33	-	-	
2.2 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.04	-	-	
2.3 有害物質を含まない材料			接着剤に有害物質を含まない材料を採用	4.0	0.08	-	-	
2.4 既存建築躯体などの再利用				3.0	0.18	-	-	
2.5 部材の再利用可能性			OAフロア、可動間仕切りの採用	4.0	0.18	-	-	
2.6 フロン・ハロンの回避				3.3	0.18	-	-	
1 消火剤			ハロン消火剤を使用しない	4.0	0.33	-	-	
2 断熱材				3.0	0.33	-	-	
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	
LR-3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9
1 大気汚染防止			空調熱源に都市ガスを採用	4.0	0.15	-	-	4.0
2 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.15	-	-	3.0
2.1 騒音				3.0	0.33	-	-	
2.2 振動				3.0	0.33	-	-	
2.3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3 風害、日照阻害の抑制				2.6	0.15	-	-	2.6
3.1 風害の抑制				2.0	0.70	-	-	4.0
3.2 日照阻害の抑制			近隣商業地域については、第二種住居地域の規制を満たしている	4.0	0.30	-	-	
4 光害の抑制			広告塔の夜間照明について特に影響がない。建物外壁による反射	4.0	0.10	-	-	4.0
5 温熱環境悪化の改善				2.0	0.30	-	-	2.0
6 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.15	-	-	3.2
6.1 雨水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	4.0
6.2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
6.3 交通負荷抑制			駐車場・駐輪場の確保。導入路の十分な巾と緊急時の車輛の出入	4.0	0.25	-	-	
6.4 廃棄物処理負荷				3.0	0.25	-	-	

■ LR-1 用途別得点表		事務所	-	-	-	面積按分 総合スコア
		5369 m ²	-	-	-	
1	建物の熱負荷抑制	4.0	-	-	-	4.0
3	設備システムの	3.0	-	-	-	3.0
	高効率化	3.0	-	-	-	
3.1	空調設備	3.0	-	-	-	-
3.2	換気設備	4.0	-	-	-	-
3.3	照明設備	4.0	-	-	-	-
3.4	給湯設備	-	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	3.0	-	-	-	-